

新たな栽培対象種の種苗生産の取り組み

★オニオコゼ★



オニオコゼは小型底曳網、刺網等で漁獲されていますが、漁獲量は少なく販売単価が高い魚種です。この魚は美味しい高級魚として薄造りや姿揚げなどで賞味されるほか、よいだしがとれるため鍋物・味噌汁・煮物など様々な料理となって食されています。

この美味しい魚を増やそうと栽培漁業協会では昨年度からオニオコゼの種苗生産を行っています。昨年はいろいろな文献等を参考にして生産を開始しましたが、いつも同じ時期に全滅してしまい、何とか生き残った700尾しか生産できませんでした。

今年は昨年の反省から、親の栄養状態に注意し、良質な卵を得ようと考えました。また、生まれてきた仔魚にも栄養価の高い餌を与えました。8月末現在、約2cmの稚魚を約2.5万尾生産することができました。しかし、昨年と同じように大量斃死する仔魚が発生し、

20回も生産を行うこととなりました。

生産方法を改良し、順調に生産出来るものと信じていたのですが、度重なる生産中止で袋小路の中へ迷い込んでしまった気持ちとなりました。その後オニオコゼ以外の文献もあさって見るようになり、仔魚の生き残りが良くなるような方法があれば直ぐに飼育方法に取り入れました。

生産後期でようやく生き残りが高くなり、生産目標の1万尾を達成することが出来ました。今は、選別して残った約1.2万尾の稚魚を来春の放流に向けて大切に飼育しています。また、今年の生産結果をとりまとめ、来年度に向けた飼育方法を検討しています。

来年度こそは順調に生産し、近い将来オニオコゼの大量生産・大量放流につなげたいと思っています。

カサゴ



カサゴは最もポピュラーな磯の魚の一つで、煮付け、唐揚げ、刺身など、どのような料理にも合う、馴染みやすい魚です。カサゴは雌親から直接仔魚が産まれてくる「卵胎生」と呼ばれる方法で繁殖します。



現在、カサゴ放流の要望が多いことから、種苗生産・放流に向けた取り組みを開始しようと考えています。

メイタガレイ（ホンメイタ）

栽培漁業センターでは以前よりメイタガレイの種苗生産に取り組んできましたが、残念ながら、まだその技術は確立されていません。

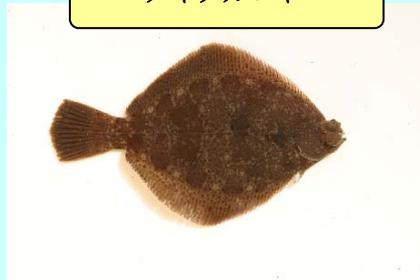
近年、卵を産ませることは可能となってきましたが、その卵の孵化がうまくいかないことや、たとえうまく孵化したとしても、生まれた仔魚の多くが育たずに死んでしまうという問題があり、種苗生産の技術開発は遅々として進まない状況が続いていました。

しかしながら、昨年度は親魚の餌や水槽などを工夫したことで、大量の良質な卵を産ませることができるようになり、多くの健康な孵化仔魚を得ることができました。

またその仔魚から約 4000 尾の稚魚育てることもでき、ようやく飼育に関する試験を行うことが可能となりました。

今年度も産卵(11~1 月)が近付き、種苗生産の季節となりました。まだ、稚魚の病気や体色の異常など、様々な問題がありますが、一日も早い放流を目指して生産技術の開発に取り組んでいきたいと思っています。

メイタガレイ



ヒラメに続き、鳥取の砂浜域を代表する魚。眼の間に板状の棘があり、持つと刺さって痛い目にあうため、「眼痛」ガレイというようになった説と、眼の間の棘を板に見立てて「目板」ガレイと言うようになった説がある。近い仲間に「ナガレメイタガレイ」という種があるが、鳥取では普通「バケメイタ」と呼ばれている。

主に底曳きで漁獲されるが、年々その漁獲量は減少している。

産卵前の秋が味がよいとされ、煮付け、焼き物、揚げ物などにすると美味しい。

